

「夢育」：一人ひとりの子どもが、自分の中で「夢」を育みながら、それに挑戦していく経験を通して、「意欲」や「自信」などの「自分を高める力」を養っていく教育（岡山県教育委員会）



安全安心な人間関係で築かれた家庭は、子どもたちにとって「心の安全基地」となり、非認知能力、夢育のベースにもなります。これを夢育の視点で表現するなら「夢育基地」でしょうか。「わが家のすこやか日記」は、まさに「夢育基地」のエピソード集として親しまれていますが、一方で「そんな余裕はない」「現実ほど遠い」という声も聞こえてきます。そこで、皆さんの「夢育基地」の実現に向けて、少しでもお役に立てればと思い、日記から見える夢育ポイントを紹介します。



夢育アドバイザー（岡山県）中山芳一



作品

幼児部門

パパは、ほくがねむれないときはいつもだっこをしてそとをおさんぽしてくれます。ぼくは、くものうえにいるようなきもちになってすくねてしまいます。「いいかげんにあまやかすのやめられえ。」あかちゃんじゃねえんじゃけん。おかしいがん。」とママは、パパをおこり

ます。けど、パパはかくれながらしてくれます。「パパ、ずうっとだっこねんねしてね。」

だいきき「パパのだっこねんね」 マンガあやのい

注目!

夢育ポイント

「あなただけでは教えるね」という言葉に喜びを感じてしまうのは私だけでしょうか。内緒や秘密を共有してくれるのは、私を特別の存在として選んでくれているからと思うと嬉しくなります。想像してみてください。「これは、他のみんなには内緒ね。」とママに言われて、おやつをもらう子ども。背徳感のようなものを感じてドキドキしながらも、ママと自分だけの秘密がとても嬉しく感じています。この日記の「パパのだっこねんね」も同じなんです。ママに内緒の「特別感」。特に小さい頃の秘密の甘やかしは、効果大。「自分を大事にしてくれている」という自己肯定感が育まれます。今回の夢育ポイントは「特別感」。皆さんも子どもとの秘密を作ってみませんか。(中山芳一)